

「もうそろそろなんとかになって欲しい」 好転への期待強いが、確認は?...

情報センター 責任者 村上 琇樹

産構研(景気・産業構造動向調査研究会=中同協)は全国の会員約2200社に依頼して景況調査を継続し、DOR(ドール=報告書)にして発表しています。

愛知同友会の「情報センター」が情報に関するアンケート調査(92年7月)を行った中で会員は「地元の景況」「身近な経済動向や業界情報」を知りたい等の期待が強く、まずは産構研の協力も得ながら、独自の景況調査を実施し、自前の情報を独自に発信する力を身につけることを目的に実施することになりました。

今回の調査には93年度、地区の役員の皆さん 819名の方々の中から建設・製造・流通・サービスの業界から 509社の皆様にアンケートをお願いし、207社のご協力を得てまとめることができました。

今年度は5月・8月・11月に同様の調査を実施させていただきますので今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

【分析会議協力者】(敬称略)

山口 義行	立教大学	野々山広幸	(株)まるぜん	阿部 克己	中同協事務局
前畑 憲子	岐経大	豊田 弘	知立機工(株)	高橋 義弘	三重事務局
兼岩 靖宗	三貴工業(有)	木全 哲也	(株)三恵社	山田 佳倫	愛知事務局
鬼頭 秀夫	村工業(株)	林 永芳	(株)浜木綿	福島 敏司	愛知事務局
浅井与四郎	同友会協組	村上 琇樹	村上電気工業(株)		

【調査要項】

- (1) 調査時 1994年2月25日～3月5日
- (2) 対象企業 愛知中小企業家同友会、会員企業
- (3) 調査方法 郵送で依頼し、自計記入を求め、FAXで回収した
- (4) 回答企業数 509社より、207社(40.7%)の回答を得た
(建設業35社、製造業79社、流通・商業45社、サービス業48社)
- (5) 平均従業員数 34.2人

景況調査の開始によせて

景況分析会議座長 山口義行 (立教大学)

情報発信の基地になる

自分自身を知ること、すべての活動はここから始まります。自分はどのような人間なのか、自分は周りとの関係からするとどんな位置にいるのか。何か事を始めようとすれば、こうしたことについての正しい認識が不可欠になります。

そして、次にはその自分についての情報を相手に正しく伝えることが必要になります。相手のことを知るだけでなく、自分自身の情報や相手に役立つ情報を自ら与えることによってはじめて、他人からも信頼され、評価もされることになります。「受け手」であるだけでなく「与え手」でもあることが、「一人前の社会人」と認められる前提なのです。

こうしたことは、中小企業経営や中小企業運動においてもそのまま当てはまるように思います。その意味で、愛知同友会がこのたび自分たちの手で、自分たち自身を対象にした景況調査を始められたことに、私は心から拍手をおくりたいと思います。

「同友会が情報発信の基地になる」ことによって、愛知同友会という存在が世間に一層アピールされることになります。また、今後は「この調査結果をどのように活用していくか」という点で、会員経営者の方々の力量が問われることにもなります。いずれにしても、景況調査がスタートを切ったことの意味は大変大きいと思います。

小さな情報を束ねて、大きな流れを知る —— 「第1回」の制約

会員企業の小さな情報を束ねることで、情勢の大きな流れをとらえることができる。景況調査はそうした試みだと思います。しかし、そのためには、こうした調査を何回か積み重ねることがどうしても必要です。この種の調査はアンケートの結果得られた数値を、時間的な流れの中でそれがどう変化しつつあるかという視点から分析して、一定程度の判断を下そうとするものです。従って、本来、一度の調査結果から何か結論めいたものを引き出すことはできない性質のものです。こうした制約を念頭に置きながら、以下に「同友会景況調査報告」(以下、DORと略す)や会員経営者へのヒアリング等も参考にしつつ、ごく簡単に今回の調査結果についてまとめておきたいと思います。

第1回、調査結果について

高まる回復期待—ただし足元は依然厳しい

業況判断や売上高についての調査結果から得られる第1の印象は、景気回復への期待の高まりです。

前年同月と対比して全業種の業況判断D I（前年の2月と比べて業況が「好転」したと答えた企業の割合から「悪化」したと答えた企業の割合を引いたもの）は△47ですが、5月の見通しでは△21となり依然として水面下（「悪化」が「好転」を上回っている状態）にあるとはいえ、かなりの改善が予測されています。

見通しを業種別にみると、建設業（△30）や製造業（△29）が比較的慎重であるのに対し、流通業（△15）やサービス業（△7）では比較的楽観的であるという傾向がみられます。

業況判断 前年同期比			5月見通し			業況判断D I 昨年2月比5月見通し	
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化		
23	57	115	42	68	82	-47	-21
11.8	29.2	59.0	21.9	35.4	42.7		

売上高についても「増加」への見通し、あるいは強い期待が示されています。前年同月と対比しての売上高D I（「増加」－「減少」）が△35であるのに対し、5月の見通しでは△7となり、水面下ギリギリまで改善するという予測結果になっています。ただし、建設業では昨年2月に対して△3であるのに5月の見通しでは△11と逆に「減少」幅が拡大する結果になりました。

売上高 前年同期比			5月見通し			売上高D I 昨年2月比5月見通し	
増加	不変	減少	増加	不変	減少		
48	38	121	60	69	75	-35	-7
23.2	18.4	58.5	29.4	33.8	36.8		

以上は見通しについてですが、景気の現状については前年と比べて業況が「悪化した」と答えた企業が59%、売上高についても「減少した」と答えた企業が59%を占めており、依然厳しい状態が続いていることを示す結果になっています。

苦しさが続く資金繰り

資金繰りについては、依然として51.7%の企業が「窮屈」と答えており、D I値（「余裕」－「窮屈」）は△49という結果になりました。5月見通しもD

I 値が△46とほとんど改善がみられない結果になっています。

業況や売上については「好転」「増加」を予測しながら、資金繰りが楽になると予測していない企業がかなりあることになります。

資金繰り						資金繰りDI	
前年同期比			5月見通し			昨年2月比	5月見通し
余裕	順調	窮屈	余裕	順調	窮屈		
6	91	104	7	95	98	-49	-46
3.0	45.3	51.7	3.5	47.5	49.0		

強い価格低下圧力

もう一つの懸念材料は価格（売価）低下圧力の強さです。前年の2月より「低下した」と答えた企業は64.8%に達しています。DI値（「上昇」－「低下」）では△61、5月見通しでも△40となっています。経常利益が前年2月よりも悪化したとする企業は60%ありますが、これにはこうした売価低下が強く影響していると考えられます。ただし、経常利益の5月見通しでは△19となり、「悪化」超過幅が半減する結果を示しています。売上数量の増加をかなり見込んでいることになります。

価格変動						価格変動DI	
前年同期比			5月見通し			昨年2月比	5月見通し
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下		
7	63	129	11	96	90	-61	-40
3.5	31.7	64.8	5.6	48.7	45.7		

経常利益						経常利益DI	
前年同期比			5月見通し			昨年2月比	5月見通し
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化		
52	50	123	45	73	84	-44	-19
15.6	24.4	60.0	23.3	36.1	41.6		

気を引き締めて、もうひと頑張り

総じていえば、「足元の景気は依然として厳しいが、今後は多少なりとも良くなっていくであろう、いやそうなって欲しい」という予想あるいは期待が強まっていることを示す結果であったと思われます。

ヒアリング調査でも、景況がはつきり好転しつつあることを示す証拠のようなものはあまり見つけることはできませんでした。「ぼちぼちではあるが、仕事がかかるようになった」「以前の真つ暗闇の状態ではなくなったように思う」といった程度のものでした。

「年明け後、かなり良くなったように思えたが、また最近厳しくなってきたようにも思える。ブレが大きくはつきりとした方向が見えない」といった声もあり、良い方向に一直線に進んでいるといった状態ではありません。

マスコミの景気好転ムードに踊らされることなく、「冷静に状況を分析しながら、もうひと頑張りしよう」といったところでしょうか。今こそ、同友会で目標にしている経営体質を強化して、21世紀型の企業に改革を進めるときと言えるでしょう。

**愛知中小企業家同友会
景況調査ＤＩ値一覧**

全業種

今月の状況	前年同月比	次期見通し
売上高 （増加－減少）		
	－１０（－３５）	－２（－７）
経常利益 （黒字－赤字）、前年同月比は（増加－減少）		
２（－１２）	－１７（－４４）	１（２）
在庫 （過剰－不足）、前年同月比は（増加－減少）		
２５（１４）	－１０	１５（１０）
価格変動 （上昇－低下）		
	－５９（－６１）	－４１（－４０）
取引条件 （好転－悪化）		
	－２１（－２６）	－１９（－１８）
資金繰り （余裕－窮屈）		
－３３（－４９）		－３９（－４６）
施設稼働率 （上昇－低下）		
	－２０（－４０）	－１０（－１４）
設備過不足 （過剰－不足）		
７（１１）		７（７）
雇用動向 （過剰－不足）		
７（１３）		６（４）
業況判断 （良い－悪い）		
－２３		－１８
業況判断 （好転－悪化）		
	－２３（－４７）	（－３０）

（ ）内は前回（９４年２月）調査値

【資料】DI値推移一覧

No. 1

<今月の状況>

経常利益DI 今月の状況

「黒字」-「赤字」	2月	5月	8月
全業種DI	-9	2	-8

在庫感DI 今月の状況

「過剰」-「不足」	2月	5月	8月
全業種DI	19	25	15

資金繰りDI 今月の状況

「余裕」-「窮屈」	2月	5月	8月
全業種DI	-43	-33	-39

設備過不足DI 今月の状況

「過剰」-「不足」	2月	5月	8月
全業種DI	10	7	3

雇用動向DI 今月の状況

「過剰」-「不足」	2月	5月	8月
全業種DI	11	7	-2

業況判断DI 今月の状況

「良い」-「悪い」		5月	8月
全業種DI		-23	-20
建設業DI		-9	-29
製造業DI		-33	-23
流通業DI		-30	-13
サービス業DI		-11	-12

<前年同月比>

売上高DI 前年同月比

「増加」-「減少」	2月	5月	8月
全業種DI	-35	-10	-4

経常利益DI 前年同月比

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月
全業種DI	-44	-17	-14

在庫感DI 前年同月比

「増加」-「減少」	2月	5月	8月
全業種DI	14	-10	-7

価格変動DI 前年同月比

「上昇」-「低下」	2月	5月	8月
全業種DI	-61	-59	-53

取引条件DI 前年同月比

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月
全業種DI	-26	-21	-22

施設稼働率DI 前年同月比

「上昇」-「低下」	2月	5月	8月
全業種DI	-40	-20	6

<ウラにつづく>

業況判断D I 前年同月比

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月
全業種D I	-47	-23	-16
建設業D I	-47	-25	-32
製造業D I	-53	-20	-17
流通業D I	-44	-26	-20
サービス業D I	-41	-24	5

<次期(3ヶ月先)見通し>

(表内はその月に対する予測)

売上高D I 次期見通し

「増加」-「減少」	5月	8月	11月
全業種D I	-7	-2	8

経常利益D I 次期見通し

「黒字」-「赤字」	5月	8月	11月
全業種D I	2	1	9

在庫感D I 次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月
全業種D I	10	15	8

価格変動D I 次期見通し

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月
全業種D I	-40	-41	-41

取引条件D I 次期見通し

「好転」-「悪化」	5月	8月	11月
全業種D I	-18	-19	-19

資金繰りD I 次期見通し

「余裕」-「窮屈」	5月	8月	11月
全業種D I	-46	-39	-40

施設稼働率D I 次期見通し

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月
全業種D I	-14	-10	4

設備過不足D I 次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月
全業種D I	7	7	2

雇用動向D I 次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月
全業種D I	4	6	-4

業況判断D I 次期見通し

「良い」-「悪い」		8月	11月
全業種D I		-18	-9
建設業D I		-9	-25
製造業D I		-27	-8
流通業D I		-21	-4
サービス業D I		-11	1